

# 宮崎市消防施設長寿命化計画 概要版

## 第1章 計画の概要

### 1) 計画の目的

本計画は、持続可能かつ最適な公共施設サービスの実現に向け、総量の最適化・質の向上・投資の厳選を経営方針とする宮崎市公共施設等総合管理計画（H29年策定）に基づき、市民の安全安心な生活に欠かすことのできない消防施設を対象に、将来的な人口減少・少子高齢化、それに伴う財源の不足等の課題を踏まえ、**中長期的な視点から施設の改修・更新費用等の縮減を図る「宮崎市消防施設長寿命化計画」の策定を目的**とします。

### 2) 計画の位置付け

本計画は宮崎市公共施設等総合管理計画に基づき、消防施設（消防庁舎：9施設・消防団車庫：136施設）を対象とする個別計画として位置付けます。

### 3) 計画期間

計画策定からR12年度までの**10年間を計画期間**とします。ただし、社会情勢の変化や上位・関連計画の策定や改訂等が生じた場合は、適宜見直しを行うものとします。

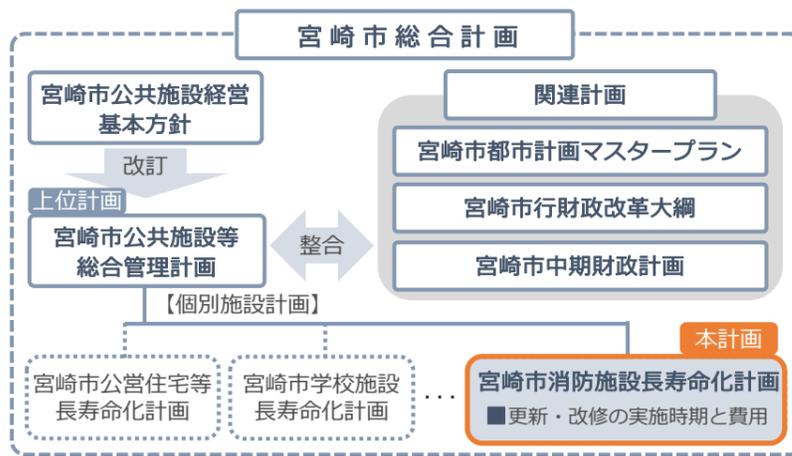


図1 本計画の位置付け

## 第2章 公共施設等の管理方針

### 1) 宮崎市の状況

本市の人口はH26年から減少に転じ、生産年齢人口の減少による市税の減少が見込まれる一方、老年人口の増加に伴う社会保障費の増加が想定されます。また、**これまで建設された公共施設を今後も維持するために年平均133億円もの修繕更新費用を要**することが予見されています。

### 2) 総合管理計画の基本方針

#### 目指すべき経営の姿

持続可能かつ最適な公共施設サービスを提供し、市民満足度を高める

#### 実現するための実施方針

- 方針1 施設情報の共有化の推進
- 方針2 計画的かつ効率的な「総量の最適化」の推進
- 方針3 公共施設の安全確保
- 方針4 耐震化・長寿命化の推進
- 方針5 維持管理費の縮減
- 方針6 民間との連携の推進
- 方針7 適正な使用料の設定

## 第3章 消防施設の現状

消防施設の劣化状況を把握するため、特に影響の大きい6部位（屋根・外装・内部・機械設備・電気設備・屋外）において損傷の有無に加え、損傷の程度を示す判断基準（「A・B・C・D」の4段階評価）により劣化調査を行いました。

調査を実施した施設（消防庁舎9施設、消防団車庫9施設<sup>(※)</sup>）の**約7割は広範囲に劣化が見られるC判定**であり、**早急に対応する必要があるD判定の施設が約2割**でした。

※ 消防団車庫全136施設の劣化調査は、今後5～10年以内に整備が見込まれる施設（構造毎に2～3施設）を対象に実施しました。

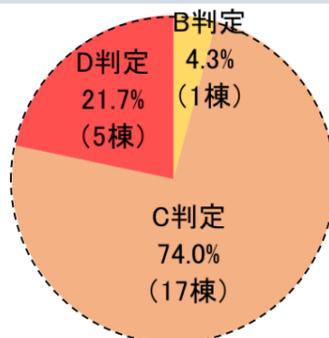


図2 劣化調査の結果（消防庁舎9施設、消防団車庫9施設）

## 第4章 消防施設の整備及び長寿命化

### 1) 将来的な施設整備費の検証

今後、宮崎市の消防施設を損傷が発生してから対応する従来の手法（事後保全型管理）で管理した場合と長寿命化を図った手法（予防保全型管理）で管理した場合の施設整備費を比較した結果、**消防庁舎は予防保全型管理**を行うことで施設整備費の縮減が見込める結果となりました。また、**消防団車庫は事後保全型管理**による施設整備を行うことで財政負担の軽減が見込める結果となりました。

### 2) 整備の考え方

本計画では、施設の性能を目標使用年数まで維持するため、築年数に基づいて適切な時期に大規模改修・予防保全改修、更新等を行うものとします。消防庁舎は予防保全型管理へと転換し、異常の有無を事前に把握して**劣化が拡大する前に行う予防保全改修、より長期的に使用するための大規模改修**（原状回復に加え、耐久性・機能の向上を図る）を行います。消防団車庫は、事後保全型管理として、これまで同様、適宜修繕しながら維持管理を行います。

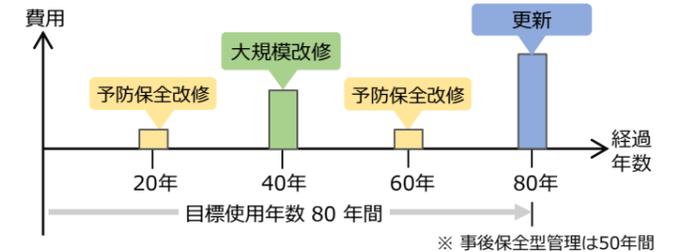


図3 予防保全型管理のイメージ

大規模改修：施設全体に劣化や設備異常が進行した各部位を改修する工事。予防保全型管理では、部材のグレードアップによる構造耐力の強化や機能向上を併せて行う工事。  
予防保全改修：異常の有無を事前に把握したうえで劣化が拡大する前に原状回復を図る工事。

## 第5章 各施設の整備における年次計画

施設整備にあたって、消防庁舎は経過年数が30年を経過した施設も多く、目標使用年数80年まで施設を使用していくため、基本的には**直近10年以内に大規模改修または予防保全改修**により、耐久性の強化や機能向上を図ったうえで、**予防保全型管理へと転換**を図っていきます。

規模の大きな消防庁舎の改修・改修、消防団車庫の更新により、**特定の年度に集中している施設整備費は平準化**を行うことで財源確保の実効性を高めます。

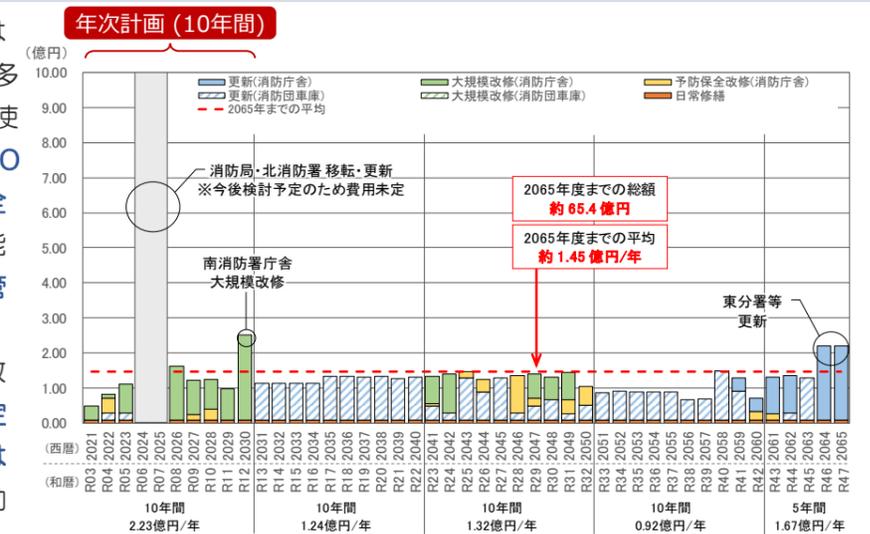


図4 平準化後の施設整備費の試算結果（消防庁舎・消防団車庫合算）

## 第6章 長寿命化計画の継続的運用方針

利用者の安全確保を第一に考えながら消防施設を継続的に運用していくためには、**日々変化していく施設の状況を適切に把握**する必要があるため、施設の点検が定期的に行えるよう**点検マニュアル**を作成し、施設管理者が行っている日常点検に活用します。

また、本市が「宮崎市公共施設等総合管理計画」の施設分類別の実施方針において、「施設情報の共有化の推進」を掲げていることから、「施設カルテ」以外にも**定期点検・日常点検の結果や工事及び修繕履歴等の一元化した情報を活用**し、予防保全型による施設の維持管理に努めます。

さらに、公共施設の維持管理、整備及び長寿命化にかかる財源確保のため、**財政負担の軽減や施設整備費の平準化**を図るとともに、**地方財政措置等の有利な財源を活用**しながら、**効率的かつ効果的な運営**に取り組みます。